

大津市の原子力防災避難訓練についての質問・要望

～5月13日大津市原子力防災避難訓練を踏まえて～

安定ヨウ素剤の事前配布を求めます

大津市長 越 直美 様

日頃より大津の住民の安全な暮らしを守るためにご尽力いただき、ありがとうございます。また、大飯原発3、4号機の再稼働に際して市長として反対を表明していただいたこと、直近の名古屋高裁金沢支部での大飯原発差し止めを求めた控訴審判決に対して「誠に遺憾」「十分に審理され尽くしたのか疑問」「30キロ圏外の自治体を含めた避難体制が確立されていない」として改めて再稼働に反対する姿勢を示していただいたことは、私たち原発のない社会を望む市民にとっては大変心強く、嬉しいことでした。改めて感謝申し上げます。

さて、滋賀県では越市長や三日月知事が再稼働に反対を表明してくださったにも関わらず、関電は福井県知事と大飯町長の下承だけで、3月の大飯原発3号機の再稼働に続いて、5月9日に4号機の原子炉も起動を強行しました。昨年再稼働された高浜原発と併せて、福井県では3基の原発が稼働しています。この間、日本各地で震度5を上回る大きな地震が相次ぎ、6月には大阪北部を震源とする震度6弱という大きな地震も起こりました。いつ何時、福井県の若狭湾周辺で大きな地震が起こらないとも限らず、この状況の中、高浜、大飯の原発が稼働しているもとで、実効性のある避難計画を策定することは喫緊の課題であると考えます。

大飯原発から47km圏内に位置する大津市で原子力防災避難訓練が行われたことは、市民の原子力災害への意識を高める上でも大変意義のあることと思っております。その中で、対象地域住民の3割近くの住民が参加したことは、原発事故への不安と関心の高さを示すものだと思います。偶然にも間もなく大阪北部地震が起こったことで、さらに防災意識を高めることになったと感じています。

私たち原発を考えるびわ湖の会と避難計画を案ずる関西連絡会のメンバーにとっても、避難訓練を監視させていただいたことは、実際に原子力災害が起こった場合を想定して避難のあり方を確認でき、大変勉強になりました。

そこで、今回、避難訓練の監視行動について報告書を作成し、そこから見えてきた課題について質問と要望をいたしたく、申し入れさせていただきます。

以下の質問と要望について、ご回答ください。

1. 安定ヨウ素剤について

今回、安定ヨウ素剤の配布が割愛されましたが、原子力防災に安定ヨウ素剤の配布は必須です。

事前配布については、よく誤飲の危険性や服用のタイミングの難しさを指摘されますが、災害が進行中の大混乱の中で一人ひとり問診して配布することなど不可能で、現実には即していません。避難時の混乱で配布が遅れば服用のタイミングを逃してしまうこともあると思いますが、自分で持っていれば指示さえ出されればすぐに服用することができます。

滋賀県内でも UPZ 圏外の複数の自治体が事前配布に向けて取り組まれていることから考えても、事前配布に大きな障害があるとは思えません。また、事前配布なら、あらかじめヨウ素アレルギーや薬との飲み合わせについて医師、薬剤師としっかり相談でき、飲めないと分かっている人はいち早く避難することができるなど、メリットの方が大きいのです。

【質問 1】 今回の訓練で安定ヨウ素剤の配布・服用が入っていなかったのはなぜですか？

[要望 1] 大津市は安定ヨウ素剤をすでに備蓄しており、47km 圏に広げて避難計画を立て、訓練を実施するなど先進的な意識を持っているのですから、すぐにでも安定ヨウ素剤の事前配布にも取り組んでください。

2. スクリーニングと除染について

【質問 2-1】 前回予定されていた防災訓練では、伊香立中学校は説明会の会場として使われるだけでした。今回、なぜスクリーニング会場にしたのですか？

[要望 2] 伊香立中学校は、車両が一方通行で出入りできません。国のマニュアルにも違反し、汚染を拡大するだけなので、ここをスクリーニング会場にするのはやめてください。候補地からも外してください。

【質問 2-2】 外部被ばくした人は、付いている放射線物質を体内に取り込んでしまわないように、できる限り早く除染しなければなりません。車両は避難するための必需品ですが、汚染されたままで使うことはできません。今回、除染の訓練が入っていなかったのはなぜですか？

[要望 3] 除染が割愛されたことで、「原発事故が起こってもスクリーニングさえすれば避難できる」という印象を住民に与えてしまいました。これは、被ばくの危険性を軽視することにつながります。避難訓練には人と車両の除染を入れてください。除染担当者の訓練も行ってください。

3. 被ばくの過小評価について

防災訓練は訓練に参加することに意義があるわけではありません。訓練で学んだことを、実際に災害が起こった場合に生かせなければ意味がありません。しかし、訓練の後に行われた講演は、原発や放射線の危険性を非常に軽視した内容で、ともすると原子力防災訓練は必要ないのではないかという印象を

与えました。

原発事故由来の人工放射線と、自然界にある放射線や治療が目的で使われる医療放射線を並べて論じることは間違っています。また、日本が放射線防護の法令の基礎としている ICRP（国際放射線防護委員会）でさえ、「確率的影響のしきい値はない」が原則で、低線量被ばくは無害であるような説明は問題です。

被災地では、原発を推進する人たちにより、放射線はそれほど危険ではないという説明がまことしやかに広げられたことで、放射線を危険だと考える人たちが差別され、子どもたちを放射線から守ろうとすることすら批判される状況があります。しかしそれは同時に、放射線をそれほど危険でないと思わなければ暮らしていけない現状であることを物語っています。

「低線量被ばくは危なくない」という意識が広がれば、原発はそれほど危険ではないもの、ひいては原子力防災、放射線防護は必要ないものとなりはしないかと危惧されます。

【質問3】 説明や講評で「原発事故がまた起こるわけではない、原発が危険なわけではない」としていましたが、これは福島原発事故の被害を無視するもので、このような話をするにはあってはならないことだと思います。

論評者について、事前に話の内容を確認されましたか？

【要望4】 このような論評を行わせたことを住民に謝罪し、今後、講演を依頼される場合は、肩書きや専門性を基準にするのではなく、どのような内容の話をされるのか、事前に確認してから依頼してください。原子力防災を考えると、「放射能は怖くない」という考え方を入れてはいけません。

【要望5】 今回は初めての原子力防災訓練でしたので、質問したかった方も多数おられたと思いますが、その機会が設けられていませんでした。今後の防災訓練では質疑応答の時間を設けてください。また、地域の声を聞く良い機会ですので、参加者にアンケートで感想等を書いてもらい、参考にすることも大切です。

2018年7月10日

原発を考えるびわ湖の会

連絡先：井野 文 滋賀県甲賀市甲賀町鹿深台 180-65 TEL:080-5351-7569 FAX:0748-88-6624

避難計画を案ずる関西連絡会

連絡先団体：グリーン・アクション／原発なしで暮らしたい丹波の会／脱原発はりまアクション／
原発防災を考える兵庫の会／美浜の会

この件の連絡先：美浜の会 大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル 3階 TEL：06-6367-6580 FAX：06-6367-6581

